

第6回 精華町総合計画審議会 議事摘録

■日時・場所

- ・令和4年11月10日（木）10:00～11:40
- ・精華町役場 6階 審議会室

■内容

1. 開会

2. 議事

(1) (仮称) 精華町第6次総合計画（中間案）のパブリックコメントの対応について

事務局 資料1について説明

杉下委員 スポーツ協会では、指定管理を受けて各スポーツ施設の管理・運営を行っており、パブリックコメントのような地元の声は大切である。一方、各スポーツ施設の利用は、各種スポーツ団体の利用が中心となっているのが実態であり、多額の費用をかけて改修することは難しく、スポーツ協会として、改修等の可能な範囲は限られている。その中でも、特にトイレの老朽化が進んでいる施設があり、一般住民の利用の観点からも、優先的に改修をお願いしたい。

パブリックコメントの対応については、特に異論はない。

川勝会長 他に意見等ないようであれば、この対応案をもって了承することとしたい。

——（委員一同了承）——

(2) 精華町第6次総合計画（案）について（答申）

事務局 資料2、資料3について説明

川勝会長 前回、第5回審議会での各委員からの意見を受けて変更した内容を中心に説明があったが、これに対する意見等あればお願いしたい。

上杉委員 前回の審議会での意見を踏まえて変更されており、良い内容であると思う。この内容で了承したい。

高橋信委員 前回の審議会の意見が丁寧に反映されており、バランスも良くなっている。

竹内委員 総合計画は立派なものできたと思う。特に異論はない。

一方で、自治会ではいくつかの課題を抱えており、特に高齢化社会における生活のあり方について問題意識を持っている。新しい住宅地ができれば生産性や利便性が上がるが、高齢化が進む地域では、免許返納を考える方も多い。高

齢化社会の進展を見込み、それに対応したまちづくりが必要である。例えば、道路の敷設に際しては、自動運転に対応したレーンをあらかじめ作ることもひとつの方法であると思う。

また、ごみの収集方法についても議論がある。新しい住宅地はごみステーション方式となっているが、高齢になるとそこへ持っていくことが大変である。また、認知症が入ってくると、分別や清掃当番でのトラブルも発生している。個別収集はコストがかかり、時代に逆行しているが、高齢者の福祉の面を考えると、検討の余地があると思う。

古海委員 行政用語を中心に注釈が細かく記載されており、一般住民にも分かりやすい内容になっていると思う。

森本委員 前回、SDGs に関する意見を述べたが、各施策に関連する SDGs の目標が入っていて、時代に即している。町レベルでは難しい目標もあるが、各施策の目標に掲げるとの言葉があり、良いと思う。総合計画の計画期間である 10 年後には、SDGs の期間も終了しているが、目標に掲げているので、達成状況の確認もお願いしたい。

高橋朝子委員 各施策や取り組み内容は、単独のように見えて、それぞれがつながっていると感じた。例えば、高齢者と交通の問題は関連し合っており、それぞれの施策の目標に沿った取り組みを進めることで、各課題が解決に向かうと感じた。また、計画全体として、自然に対する思いが感じられる内容で、良いと思う。

河合委員 基本計画の冒頭に基本構想との関連性が分かる文章が挿入され、関連性が整理されている。基本計画では、各柱に目標像と取り組みの方向性が、一問一答のような形で記載されており、分かりやすい計画となっていると思う。

川勝会長 本日欠席の石田委員からも意見をいただいております、代読させていただきます。まず、総合計画策定にフローイメージ図があり、策定経過が理解しやすい。次に、SDGs の説明が工夫されていて、詳しく知らない人にも分かりやすい。次に、注釈が多く記載されており、詳しい知識がなくても読みやすいものになっている。以上、3 点のご意見をいただいた。

各委員からの意見は、計画に賛同するものであり、特に異議等なければ、この案をもって、審議会としての答申としたいが、いかがか。

——（委員一同了承）——

——（事務局から各委員へ答申書（案）を配布）——

川勝会長 答申をするにあたって、答申書の案を作成しており、ご確認いただきたい。

今回の総合計画策定プロセスでは、非常に多くの住民の方や関係団体の方に、住民ワークショップ「せいかカフェ・ラボ」に参加いただく中で、提言書を取りまとめていただき、その内容が計画にも反映されている。前回の審議会でも、住民参画の取り組みを策定プロセスで終わらせるのではなく、計画の進捗管理にも取り入れることで、住民に町の運営に協力していただくことが重要との意見があった。この点を踏まえて、1点、附帯意見を付けている。

この答申の案についてご意見、ご質問があればお願いしたい。

特にご意見がなければ、この案をもって答申したいと思うが、いかがか。

——（委員一同了承）——

川勝会長

それでは、この答申書と第6次総合計画（案）の内容をもって、杉浦町長に答申をさせていただく。

本日の審議はこれで終了となるが、本日が最終の審議会となるので、各委員から審議会を通しての感想や町に伝えたい思いなどをいただきたい。

森本委員

精華町で生まれ育って48年、改めて我がまちについて勉強する機会を得られた。本計画が楽しみであり、本町の未来もとても楽しみである。子どもがいるが、精華町に住みたいと思えるまちづくりを進めていただきたいし、親としても自信を持って勧められるようなまちとなるよう、微力を尽くしていきたい。

古海委員

精華町に引っ越して30年になる。私の子どものうち2人が精華町に住み、次の世代を生き育てている。一方で、地域では高齢化が進み、空洞化を感じている。振り返ると、近鉄電車の急行が新祝園駅に停車するようになって、精華町が大きく変わったことを経験した。是非とも京阪奈新線の延伸を実現し、活気あるまちにしていきたい。次の世代がここに住みたい、子どもを育てたいと思えるまちをつくりあげていきたい。

谷口委員

幼稚園の仕事をしているが、子どもたちが健やかに生活できる環境づくりが重要だと思う。この10年で社会は大きく変化し、今後の10年はさらに不透明である。教育でも、これまでは認知能力が重視されてきたが、今は非認知能力も重要だとされている。将来的にはAIなどの影響で今の職業の半分がなくなると言われる中で、協力する力、我慢する力、やり通す力、自尊感情など、勉強の成果では現れない、たくましく生きる力が重要である。子育てには豊かな自然環境が大切であり、その中で非認知能力が高まっていく。精華町が発展するだけでなく豊かな自然が残ることと、子どもたちに優しいまちづくりを期待している。

寺本委員

立地企業の視点で見ると、人材育成やまちの発展は住民と企業が共有できると思う。このまちで生まれ育って、働く場所があって勤めて、退職後はNPOに

参加してまちに貢献するようなサイクルを描くことができる。特に精華町は学研都市であり、企業や人材をうまく活用できれば好循環が生まれると思う。

一方で、住民と企業では視点が違う部分があり、企業が求めるのは用地の開発、人材募集、大学の誘致などである。学研都市として10年先を見据えると、例えば、エンジン車の廃止を見越したEV充電設備の整備、スマートシティを目指す、SDGsの先進都市宣言などが考えられる。計画策定に携わる中で、企業としては、オンリーワン技術を持った企業が多く集まることで、精華町で生まれ育って働くというサイクルを作り、まちの発展に貢献できればと思った。

最後に、先ほども申し上げたが、住民と企業の視点は少し違う。今後、計画策定の機会などがあれば、企業の意見の聴取の方法についても工夫していただけるとありがたい。

竹内委員

総合計画では、発展、生産性や利便性の向上など、日の当たるキーワードが並びがちであるが、その影では高齢化社会が進行している。高齢者は労働力にならず、サービスを受ける側になり、コスト増加の原因となる。まちの発展という光に対して、高齢化は影の部分になるが、高齢者の生活環境の向上のためにどうするかという課題に対して正面から向き合い、まち全体で議論することが必要だと思う。誰もが住みやすいまちづくりができればと考えている。

鷹羽委員

「カフェ・ラボ」を含めて関わることになり、学生として参加できてとても勉強になった。これまで21年間、精華町で生まれ育ってきたが、改めて地元を見つめる機会になり、改めて精華町を好きになった。

学生の時期は、色々と興味があり、地元を出たくなる気持ちになるが、今回の機会を得て、いずれは地元に戻ってきたいと思えた。このような場に、若い世代がもっと参加できる機会があれば、同じような気持ちになると思う。総合計画を進める中で、10年後、20年後、30年後の地元の姿が楽しみになった。

高橋信委員

京都府でも総合計画、地域振興計画の見直しに取り組んでおり、昨日、山城地域の審議会にあたる会合が終わった。審議会やパブリックコメントなどの様々な意見のバランスを取るのは非常に難しかったと思う。まずは、川勝会長と精華町の担当者の方のご労苦に敬意を表したい。

京都府では、12月の府議会に上程し、審議いただくことになるが、来年度からの計画であれば、すでに具体的な取り組みについても検討を始める時期にきており、その点も含めて取り組みを進めていただければと思う。

高橋朝子委員

民生児童委員として活動する中では、子どもや高齢者と出会う機会がある。子育てサークルに参加していると、子育て中の親は孤立を感じていて、同じような境遇の人と触れ合いたいと思っている方が多いと実感している。高齢者も同じように思っている方が多い。総合計画には、子育て環境や高齢者が住みやすい環境についての取り組みが記載されているので、この計画を進めていくこ

とで、精華町が誰にとっても住みやすいまちになれば良いと思う。

曾束委員

現在、世間では物価が高騰しており、農業にも影響が出ていて厳しい状況にある。農業は、生産コストが上がっても販売価格への転嫁が難しい弱い業態である。農業をするには体が元気なことが一番であるが、高齢になると怪我や病気など、次第に続けることが難しくなり、農業の就業人口は減少傾向が続いている。農業を守るため、一段手厚い農業支援策の実施を期待している。

杉下委員

審議会での議論を通して、良い計画案になったと思う。

基本計画の農業の指標では、農地の利用集積面積の目標値が増加傾向に設定されている。私の実家の福知山では耕作地が減少してきており、精華町でも荒れ地が若干増えているように感じている。そのような中で、利用集積面積を増やす具体的な取り組みを検討していく必要がある。

学校教育について、現在、中学校の部活動の地域移行が課題となっており、少し記述があっても良いと思った。生涯学習について、指標のスポーツ施設の利用者数の目標数値が微増に設定されているが、コロナ禍が終息して、施設を積極的に利用してもらえる状況になれば、スポーツ協会として、さらなる利用者数の増加に取り組んでいきたい。

島田委員

計画の内容から、精華町のポテンシャルの大きさを感じる。民間企業でも中・長期計画を策定するが、その後の進捗管理が重要である。計画中にはPDCAサイクルの記述があり、答申書にも進捗管理に関する附帯意見がある。策定にあたっては、様々な立場の方から意見を聴取されたと思うが、進捗管理でも同様に多くの意見を聴く中で、必要があれば修正もしながら、10年後には素晴らしいまちになることを期待している。私も職務を通じて協力していきたい。

北尾委員

文化協会では、どのサークルも高齢化が進み、免許返納でむくのきセンターに通うのも大変になって辞めていく人が多く、新しい方も入ってこない状況にある。今年嬉しかったこととして、けいはんなホールの立派なステージを使用して文化フェスティバルを開催することができ、モチベーションが上がった。各サークルでは、中学校の空き教室を利用しているが、町内には立派な研究所が多くあり、そのような施設も住民が利用できるとよいと思う。

河合委員

審議会の中で印象に残っているのは将来像である。コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻など世界情勢は不透明で、これまでの延長線上では考えられない状況にある。また、最近では、急激な物価高騰など、10年後の状況を想定することは困難である。その中でも、将来像のフレーズは的を得ており、世の中が不透明で計画が見通せない状況でも、将来像に立ち返ることで、再び考えたり判断したりできるような、将来像になっていると思う。

また、学研推進機構の立場として、学研都市をどう動かしていくかについて

考える機会があったが、審議会への参加を通して、そこで生活している方がどのような思いで日々を暮らし、どのような課題を抱えているかを知る機会を得たことは良い経験となった。高齢化社会が進み、若い世代が減少する中で、今まで当たり前であったことが当たり前ではなくなってくる。効率化やコストの問題は重要だが、それを超えて生活満足度をどう高めるのか、暮らしやすいまちをどう創るのか、学研都市の持つ様々な研究成果を結びつけて課題解決につなげることは、宿題として受けとめている。

岡井委員

精華町に住んでいるが、町全体を詳しく知らない中で参加した。素晴らしい計画ができ、将来の精華町の姿が分かって良かった。

小学校の授業では、地域の探検や歴史の勉強など、精華町について学ぶ機会があり、とても大切なことだと思う。また、学校行事の中で、昔からの踊りに取り組んでいるが、伝統や文化を体験する機会として大切である。郷土愛の面では、食育も重要で、精華町産の農産物を食べる機会を増やし、美味しいと感じてもらうことが大切であり、精華町の農業の発展に期待している。子どもたちだけでなく、親世代も同じように経験し、感じる必要があると思う。

青井委員

将来像に合致した内容が基本計画の各施策に散りばめられおり、期待できる内容となっている。私の専門は食や運動であり、健康福祉や生活習慣の視点から関わらせていただいた。その点では、特に「せいか365活動」をアピールしながら取り組むことが大切であると思う。また、今回の計画では、将来像にある「つながり」が重要なキーワードであると思う。パブリックコメントの意見にスポーツ事業に関するコメントがあり、住民の関心が高い分野であると思うので、少しずつ改善していただければと思う。

つくば市が学研都市の先進地として審議会の話題にも挙がったが、以前に住んでいたことがある。当時は、今の発展した状況とは違って、以前からの住民と、研究者や学生など新しい住民の融合が課題となっていたが、今では時間の経過とともに、つながりができていると聞いている。精華町でも、新旧のまちの融合が課題として挙がっていたが、今後、交通網等が発展する中で、将来像に合致したまちへと変化していくと思う。

最後に、私は京都府栄養士会の理事をしており、本会では地域の栄養課題や栄養管理に関する事業に取り組んでいる。現在、栄養や食事等について気軽に相談できる「栄養ケア・ステーション」の取り組みを進めている。料理教室や研修会の講師の派遣などを行っており、その面でのサポートが可能である。

上杉委員

審議会の活発な議論を通して、皆さんの精華町への想いが伝わってきた。

計画の策定プロセスでは「せいかカフェ・ラボ」の役割が大きかったと感じる。合同発表会のみ参加したが、住民が議論し意見を出すことの重要性を再認識するとともに、それが大きく反映されている今回の総合計画は素晴らしいと思う。また、役場の中堅・若手職員が作業部会員として策定のベースを創って

いたように感じた。町長、副町長、部長による舵取は大切だが、中堅・若手職員が積極的にまちのことを考えるきっかけとして、総合計画の策定は重要だったと思う。審議会、住民、役場がまちの課題と目指す姿を共有し、自分事として考えることができたことが、今回の策定プロセスで最も大切だったと改めて感じた。また、本日の答申書の附帯意見がとても良いと思った。総合計画を役場の中だけに留めるのではなく、住民の方と一緒にまちの将来像を考えていく仕組みを継続していただくよう、お願いしたいと思う。

阿部副会長

最終案は、総合計画として精華町の文脈に沿った独自性に踏み込んだ計画にであると思う。審議会の議論が活発であったこと、委員構成の世代や各専門分野が多様で、各分野の視点からのまちの課題や魅力などが議論の中で共有できたことが重要だったと思う。まちのことを自分事として考えることをシビックプライドと呼ぶが、精華町はシビックプライドの高いまちだと感じた。

進捗管理については、10年先は想定できないことも多いので、社会情勢や精華町独自の変化に柔軟に対応し、時には部分的な見直しも厭わないような方針で進めて欲しい。そうすることで、精華町の総合計画が全国から注目を集めるのではないかと考えている。

川勝会長

第1回の会議で申し上げたが、総合計画は10年の将来ビジョンを描くものであるとともに、次の総合計画の10年先、20年先につながっていくものである。各委員の協力により、それに相応しい計画になったと思う。総合計画の意義は、計画そのものだけでなく、策定に至るプロセスが最も重要である。住民全員で満場一致することは難しいが、策定プロセスにどれだけ納得感があつたか、どのような意見を聴く機会を設けたのか、どのような議論を重ねたかに大きな意義があるため、総合計画の策定プロセスを明確に記載した。意見聴取としては、京都府立大学では、小学4年生の児童とまち歩きをしてマップ作りの支援を行った。小中学生には、絵画や作文でまちの将来像を描いてもらう取り組みもあった。また、住民アンケートの実施や、「せいかカフェ・ラボ」では多くの方に関わっていただく中で議論を重ね、まちづくり提言書をまとめていただいた。町議会においても独自に研究を重ねられて、提言書を提出していただいている。このように多くの機会を設けて意見を聴取した策定プロセスは、非常に印象的であった。また、「せいかカフェ・ラボ」では、役場の中堅・若手職員が、ワークショップ当日だけでなく、準備期間も含めて関わっている姿を見ると、精華町の今後のまちづくりに大きな期待を抱かせるものだった。

以上の内容を踏まえて、町行政をお願いしたい。総合計画は町の最上位計画であり、多くの住民の参画を得て策定された計画である。職員の方には、自分の目の前の仕事は何を目的としているのか、常に立ち止まって考えるためのバイブルとして、総合計画を目の触れるところに置き、日々の業務の中でも、常に総合計画に立ち返って、自身が行っている仕事の方向性が計画のビジョンと整合的であるかを考えていただきたい。総合計画は、町行政と住民との約束で

あり、重いものである。真摯に受け止めるとともに、計画の実効性を担保するために力を惜しまないで頑張っていたきたい。ただ、行政だけで抱えるのではなく、時には住民と対話をしながら、協力をお願いすることも大切である。町行政だけで責任を負うのではなく、住民にも一定共有すれば良い。今後の計画の実行プロセスでは、大学としても支援を続けたいと考えており、各委員や所属する各団体にも協力を仰ぐ中で、一緒にまちをつくるプロセスを大事にしていきたい。

これをもって予定していた議事を終了させていただく。最後まで活発なご意見をいただけたことに感謝申し上げたい。

それでは、杉浦町長にこの場で答申書をお渡しさせていただく。

——（川勝会長より杉浦町長へ答申書を手渡し）——

杉浦町長

昨年の第1回総合計画審議会において諮問させていただいて以降、6回にわたって審議をいただき、先ほど答申をいただいた。精華町の未来のために熱心にご審議を賜り、心から御礼申し上げます。答申いただいた内容を基に、第6次総合計画（案）を決定し、町議会定例会12月会議に提出したいと考えている。

第1回審議会での挨拶の際に、次期総合計画策定の意義として2点を掲げた。1点目は、学研都市建設の概成を見据えた精華町の未来を明らかにすること、2点目は、本町のまちづくりの担い手となる人材育成である。1点目は、総合計画の冒頭で、学研都市精華町のまちづくりを振り返るとともに、基本構想において学研都市概成後の未来都市デザインについて、一定明らかにすることができたものと考えている。2点目は、大規模ワークショップ「せいかカフェ・ラボ」に参加いただいた住民や各種団体の方、運営に関わった町の中堅・若手職員など、まちづくりの担い手となる新たな人材の確保と育成に繋がったものと考えている。特に「せいかカフェ・ラボ」では提言書のとりまとめなど、改めて本町の住民力の高さを実感した。

答申書では、「本計画の進捗管理については住民の参画を得て、毎年実施されたい」との附帯意見をいただいた。これを踏まえて、住民の皆様にも総合計画の進捗管理に関わっていただく仕組み作りに取り組んでいきたいと考えている。併せて、本審議会に準じる形で、委員の皆様にもご意見を頂戴する機会を設けたいと考えており、その際にはお力添えいただけるよう、お願いしたい。

3. その他

事務局

本日の会議をもって、精華町総合計画審議会は終了となる。

今後は、本日答申いただいた計画案を町の案として決定し、今月末より再開される精華町議会定例会12月会議において、議案として提案する予定である。

4. 閉会